

令和2年度 大田区区民協働推進会議（臨時会）

日時：令和2年7月30日（木）

場所：大田区役所2階 202・203会議室

【次第】

1 区長へ提出する提言書（案）について

【出席者】

委員：志村・櫻井・柳谷・小林・中島・石垣・小白木・中澤・牛山・須田

事務局：地域力推進部長・区民協働担当課長・区民協働担当2名・生涯学習担当2名

【会議録】

事務局	<p>定刻になりましたので、令和2年度大田区区民協働推進会議臨時会を始めさせていただきます。</p> <p>本日、酒井委員、中原委員からご欠席の連絡をいただいております。ただいま、委員12名のうち10名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。</p> <p>また、この臨時会は、本会議が所掌する調査研究において、区長へ提出する提言書を決定いただくための会議でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>中島会長にご挨拶をお願いいたします。</p>
会長	《会長あいさつ》
事務局	ありがとうございました。ここからは、中島会長に進行をお願いいたします。
会長	<p>会議をはじめさせていただきます。</p> <p>お手元の会議次第に沿って進めたいと思いますが、可能な限り時間を短縮して、早く終わることにご協力いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>「区長へ提出する提言書（案）」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。</p> <p>《資料に沿って説明》</p>
事務局	<p>「配布資料1」をご覧ください。資料の網掛けされている部分が、前回から修正された箇所となっております。</p> <p>まず、1ページ中段に、調査研究テーマを追記いたしました。前回の会議で「調査研究テーマを提言書の中に盛り込むべきである。」とのご提案を受けたため、このように修正をいたしました。</p> <p>次に、2ページ上段に、提言書における「学び」とは「生涯学習」のことであると分かるように追記いたしました。「学び」という言葉だけでは、学校教育など狭い意味の学習に捉えられ、学ぶ気持ちのある人だけが地域活動に参加できるように勘違いされるのではないかとのご指摘を受けたため、このように修正をいたしました。</p> <p>同様に、2ページ下段以降についても「学び」が生涯学習分野であることを追記し、それに対応する形で、「地域活動」が区民協働分野に関係することであると追記いたしました。</p> <p>3ページ中段の「学び」の課題、4ページ下段、5ページ上段の「学び」の提言6・7・9については、文言を整理し、読みやすいように並び替えをいたしました。</p> <p>次に、5ページのイメージ図の修正点について説明をいたします。</p> <p>まず、提言が協働と学びの基盤強化に寄与していることを分かりやすくしました。この提言を実施することで、左側の地域活動をする団体が育ち、右側の個人の学びが深</p>

	<p>まる過程を表して言います。そして、学んだことを地域で実践する循環が生まれることによって、協働と学びが連動することを中央の双方向の矢印を使って表現しております。</p> <p>さらに、このような協働と学びの連動によるめざすべき地域の姿として、自治会・町会、事業者、NPOなどの活動団体といった地域力を担うそれぞれの主体が、連携・協働する地域社会であることを表現しております。</p> <p>最後に、6ページの修正点について説明をいたします。前回の会議において、コロナ禍における各委員の取り組みを伺い、コロナ禍であるからこそ、地域のつながり、支えあいの大切さを再認識されているとのご意見がございました。そのようなご意見を踏まえまして、文言を修正させていただきました。説明は以上です。</p>
会長	<p>ただいまの説明内容につきまして、意見等がございましたら発言願います。</p>
志村委員	<p>前回の会議の際に、メール等で提言書（案）についての意見を募集されておりましたので、出させていただきます。</p> <p>先ほど、事務局から説明がありました「学び」という言葉の与える印象や影響が少し気になるといような意見を出させていただいた部分について、工夫をしていただけたと思っています。</p>
櫻井委員	<p>とても前回と比べて分かりやすく、すっきりとまとめていただいたなと思います。ありがとうございます。</p>
副会長	<p>この間の議論を受けて直していただいて、趣旨はすごくはっきりした一方で、区民協働の分野と生涯学習の分野という言い方について、区役所的には担当がはっきり分かれるところがありますが、学びも協働だし、逆に区民協働をやっていることが学びみたいなどところがあり、生涯学習と限っていいのかというのが悩ましいところです。</p> <p>学校教育とは少し違う意味での学習ということは、そのとおりですが、生涯学習とは、昔で言うところと社会教育です。そこに限定し、生涯にわたってと書いてあるのが生涯学習と書いてあるから、くどい感じもします。</p>
事務局	<p>会長、副会長からのご意見の件ですが、少し丁寧にするという意味で、括弧書きをつけさせていただきましたが、この括弧書きも生涯学習というところを削るということではいかがでしょうか。それで、文章で表して、学びというものはこうであるという説明をさせていただきます。</p>
副会長	<p>「学びあい」だと何か学校で教えてもらう感じがしないですか。「学びあいにより」とかしたら、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>最後の説明として入れている生涯学習という括弧書きの部分は、削除させていただきます。今、副会長からも、「学びあいによる自らを豊かにし」というところで、そのような方向で文章を調整させていただきます。</p>
志村委員	<p>最初の文章の中でも、協働と学びということが出ていますので、これも副会長が行政としての役割分担的なのところがあるとお話されましたが、協働と学びを共にしてもよいのではないのでしょうか。</p> <p>区民協働と生涯学習の部局が一緒になって、また新しいものとして進んでいくことだと思うので、少しデリケートに扱わないといけないと思います。そうでないと、また別々に二つでやっているように見えると残念なので、良いところが融合していくような言い方が良いと思います。</p> <p>また、SDGsというのがあります。ここの提言にという意味ではないのですが、意識として今後、皆さんへ求めていく中の根拠に、助成金審査の書類に何分野を書き込む</p>

	<p>のがあります。SDGsを意識するということであれば、何分野にあたりますかみたいな聞き方や、そういう評価指針みたいなのがあってもいいと思います。そういうものがないと何にチャレンジされてもいいとは思いますが、今回の団体への実態調査にあったように、自分たちだけが楽しい、このまま終わってしまうとか、継続性がないとかというふうになってしまうのではないのでしょうか。</p> <p>ヒアリングのときに、「自分の課題はここで必要がなくなればいい課題だと思っているから、消えてもいいと思っている」と回答したのですが、逆にそういう何か基本のところがないと、事業所や会社など皆さんが社会のためにも活用するという意味で、SDGsは、どこかに必ず含まれてくると思います。それを褒められるような感じのイメージで、うたっていくということが大事だと思いました。</p>
課長	<p>地域力応援基金助成事業のテーマ募集のところにも、今のようなことに触れて、活用していただく皆さんにも意識していただきたいというご意見だったと思います。</p> <p>次の募集が年度内に、来年度の募集が始まりますので、取り入れることも検討します。</p>
副会長	<p>提言7に、「生涯学習人材を育成する」という言葉があります。言葉としてあまり使わないかなと思います。</p> <p>日本都市センターの報告書では、「地域公共人材」という言葉を使っています。無理にここで使わなくてもいいとは思いますが、逆に「生涯学習人材」だと、少し狭いので、「学びの成果を活かし公共の活動に資する人材」とか、何か少し考えていただきたい。</p> <p>また、細かいことですが、最後のページの新型コロナ禍のところ、これも言葉の好みというのがあるのですが、「ソーシャルディスタンスを保ちつつ、周囲を思いやる心の距離を縮める努力をしていくことが大切です。益々」という言葉がありますが。この漢字の「益々」も、今まで以上に、人とひと、地域のつながりがあり支えあえる地域をめざすという、ソーシャルディスタンスを取るからこそ、今まで以上にという感覚とニュアンスがいいと思います。</p>
小白木委員	<p>先ほど、志村委員からお話ありましたSDGsについて、文言としては1ページの一番下のほうで記載があります。読んでいくうちに、先ほどの志村委員とのお話とも関連しますが、ぼやっと出てくるところがあると思います。5ページ目に、協働と学びの地域づくりのイメージの図がありますが、これは、まさにSDGsをみんなが達成するための一つの手段というふう認識しております。</p> <p>先ほど志村委員のおっしゃったような、この手段を使っていく目標がSDGsだという枠組みみたいなことをイメージ図で何か反映できたらもっと分かりやすくなると思いました。</p>
事務局	<p>小白木委員のおっしゃるように、今、非常にSDGsということが社会の中でも取り上げられ、30%の自治体がそういった方法を取り込んでいかなければいけないという国の方針もございます。大田区においても、これからSDGsが取り込まれて進んでいくと考えております。</p> <p>最後のイメージ図のところ、小白木委員が説明していただいているように、SDGsの一つの手段というふう捉えていただいている構わないのですが、この一番上のところにつきましては、大田区の基本構想にある将来像、「地域力が区民の暮らしを支えるおた」というイメージをこのような文章で表しております。そこに至るまでの手法はいろいろありますが、今回、この会議で取り上げた、地域活動と学びの循環というところをこのようなイメージで表させていただいて、最終的には基本構想で掲げている将来像をめざしているというようにさせていただいています。</p> <p>SDGsをうまく表現できているかわかりませんが、大田区の基本構想には沿っているということでご理解いただきたいと考えております。</p>

副会長	「地域力を担うそれぞれの主体が」という文章は、基本構想の文章なのですか。
事務局	地域力を説明している文章の中に、そのようなことは説明で書かれております。
副会長	もし若干でも変えてもいいのなら、例えば今のご意見を踏まえて、「連携・協働する持続可能な地域社会」としておけば、SDGsが入っているかなと思います。
事務局	<p>推進会議の提言でございますので、この会議の決定をもって、そのように修正いたします。</p> <p>確認させていただきますが、「連携・協働する」の後に、「持続可能な」という言葉を加筆するということがよろしいですか。</p>
副会長	はい、よろしいです。
会長	提言の部分の（１）と（２）を外してもよいのではないかという提案があります。
課長	<p>タイトルのところの４ページの（１）と（２）ここの部分ですね。１から提言がずっと９までいくので、それは問題ないと思います。</p> <p>それと、補足ですが、この提言書を８月中に区長に提出していただくことを想定しております。また、年度の終わりに２年間の調査研究をまとめるプロセスも含めた報告書という冊子を作成します。その冊子の中で、いただいたご意見をもう少し補足説明するなど、加筆することはできますので、報告書作成の際に少し言葉を厚く補いたいと思います。</p>
小林委員	<p>最後６ページの新型コロナ禍においてのところですが、３段落目の「新型コロナウイルスの終息が見えない中」は、必要でしょうか。</p> <p>ずっとコロナの話をしていて、ここはどちらかということ、申し添える部分で明るい話、こういう状態も必要ですよということがよいのではないのでしょうか。ここは要らないと思いました。</p>
会長	他にご意見はありますか。事務局は、いかがですか。
課長	今のご質問、４番の始まりのところに、新型コロナ禍において現在の厳しい状況が続いて、「新生活スタイルに配慮した」という、こういう表現があります。ご指摘いただきました最終行のところは、ここは無い形のほうが、今おっしゃったように明るい感じで終われると思います。
会長	<p>確かにそう思います。余談になりますが、新型コロナウイルスが発生してから、生活環境が変わりました。本当に戸惑っておりました。</p> <p>どうしていいか分からないくらいもたもたしてしまい、毎日のように外出していたのが、無くなると本当におかしな状態になりました。これではいけないので、コロナだからやらなければいけないことを見つけ出そうと考えまして、いろんなことをやってみました。六郷全体は１６町会ございますが、それを全部動員してやるということは、この時期、難しかったものですから、自分の町会だけでも何かできるかと考えまして、三つほど動かししました。総会とか、そういうものは全部書面に代えました。それが一つです。</p> <p>それから、消毒薬を１５０本、ビンに入れたのをもらいました。これをどこに配布するかということをお考えして、高齢者という声もありましたが、高齢者はもう自粛しているので、それよりも活動している役員の皆様にお配りしました。</p> <p>これは、普通のアルコールではないですから、１週間に一回、取り替える必要があります。その準備も全部してありまして、絶えず取り替えにきた人もいらっしゃいます。</p>

志村委員	<p>三つ目は、コロナ見舞金を出しました。1世帯当たり3,000円、見舞金として、私のメッセージを入れまして、「どうぞ元気でやってくださいね」というようなことです。このお金は町会の皆さんが積み立てた古紙の売上げ等のお金ですので、皆さんに還元しました。台帳に押印をもらってお渡ししました。460万円くらいを拠出して、1か月で終わりました。</p> <p>この三つをやりました。このように、やはりコロナだから何もしないで手をこまねいているということではないです。地域だって、みんな困って何とかしてくれないかと思っています。</p> <p>こういうときに、どういう手助けをしていただけますかと、本当に皆さんに伺いたい。高齢化している、町会には限度があります。</p> <p>今回の提言書で考えさせていただいて、この取り組みに広がりを持たせるには、このイメージ自体を皆さんで考えあうような公開の話しあえる場面づくりみたいなことができたらいいと思いました。</p> <p>イベントをするというのが厳しいのであれば、つながりがある団体にアンケートなど意見を求めるようなことをやっていただき、コロナ禍のとき、どんな活動ができましたかとか、何ができますかなど。今、会長のお話のように、もっとうちはこういう視点でこんなことができたみたいなことを集めていくとか、また、逆に学べましたということもあるかもしれません。</p> <p>そういうときに、協働と学びの視点とすると、テーマとしてやっていきやすいと思いました。</p> <p>また、生涯学習情報誌「WaKuWaKuおおた」の第3号で、ジュニアリーダーという若い子たちの仕組みがあることを再認識しました。まさに学校で学んでいるところから地域で学んでいるという部分で、学びが学校だけではないところ、また、地域が豊かな場所だと思ってもらえるように可能性を提示していけたらいいと思いました。</p>
会長	<p>今までやったことを少し振り返りながら、ガイドラインみたいなものを作って、何ができるか具体的に実践に移すような方法を一つずつ考えてみたらどうでしょうか。</p> <p>何か物足りないという気持ちを毎度しておりまして、もう一歩、足を踏み出す必要があるのではないのでしょうか。</p>
副会長	<p>提言の8ですが、「学びの場の保障と学ぶ機会の確保と内容の充実」と三つ並列しています。タイトルは、「学びの機会と内容」だけですが、ただ、このように並んでいると二つ文章が挟んでいて悩ましいです。文章も「取り上げた」といっていただいて分かりやすくなったこともあります。が、「取り上げた」というのは、このままだと「機会と内容」の両方にかかっていますので、「生活課題や地域課題などを学ぶ機会の確保と内容の充実を進めること」とすると、文章がこなれたかなという感じがするのですが、ご検討いただければと思います。</p> <p>最後のコロナのところで、「新生活スタイル」と書いてあります。大田区で使っている言葉ならよいのですが、世間では「新しい生活様式」と言っています。</p>
課長	<p>まさに「新しい生活様式」のことを言い換えているだけですので、皆様になじみのある表現のほうが分かりやすいかと思います。趣旨は同じです。</p>
会長	<p>提言は9項目あります。前に資料をいただき読んでおりましたので、まとめたら提言6項目になりました。テーマを少し変えてやれば、一緒にできるものもあると思います。</p> <p>本日は時間に限りがございます。提言書の区長への提出までに集まる機会がないと思いますので、最終的な文章の整理は私と副会長に一任させていただくと大変助かりますが、いかがでしょうか。</p> <p>《委員の承認》</p>

事務局	<p>では、会長、事務局の方でいただいたご意見の中で修正したものを作りましたら、委員の皆様へお送りさせていただきます。今、おっしゃっていただいたように、最終的には会長、副会長のほうにご一任いただけるという形でもよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>議題は以上でございますが、今後の調査研究テーマの進め方について、お話をさせていただきます。事務局より説明をお願いします。</p> <p>《資料に沿って説明》</p>
事務局	<p>配布資料2をご覧ください。このレポートに関しては、会長からいただいたご意見を参考に作成させていただきました。</p> <p>こちらは、今回、提言書の提出にあたり、協働と学びの連動を図るために、区だけではなく、各主体の代表者である推進委員の皆様方の経験や人脈の中で、できることは何かを改めて考えていただきたいと思い、作らせていただきました。</p> <p>委員個人としてだけでなく、区民、自治会・町会、事業者、NPOなどの活動団体として、既に実践されていることや、これから実践していきたいことなどをご記入いただければと思っております。</p> <p>記入される際の参考として、実践例を記載させていただきました。また、この提言の全てにあてはまらなくても、大丈夫です。皆様の考えられる取り組みをご記入ください。なお、必要事項が書かれていれば、この様式をお使いいただかなくても大丈夫です。ご協力よろしくお願いいたします。</p> <p>レポートをまとめさせていただき、次回の会議でご紹介させていただければと思っております。</p> <p>お忙しいところ、恐縮ではございますが、一番下を書いてあるとおり、8月14日、金曜日までにご記入いただきまして、事務局宛てにご提出いただければと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>皆さま、宿題が出ております。地域で一番困っていることは人材不足、それから、会員が不足しておりますので、財政減少、それから、高齢社会でありながら事業が非常に多様化して悩んでおります。これも少し調べていただいて、書いてください。</p> <p>ただいまの説明内容につきまして、質問・意見等がございましたら発言願います。</p>
小林委員	<p>先ほどの会長のお話で、「提言をまとめると6個ぐらいになります」というお話がありました。今、これを見ていたら6個並んでいて、「類似する部分を集約しました」と説明に書いてありますので、先ほど副会長もおっしゃっていたような話で、(1)、(2)を外すと6個ぐらいだろうというのが、感想としては思いました。</p>
会長	<p>それでは、時間がまいりました。他に事務局から報告はありますか。</p> <p>《生涯学習情報誌WaKuWaKuおおたの第3号について》</p>
事務局	<p>先ほど、志村委員も手に取られておられましたが、生涯学習情報誌「WaKuWaKuおおた」の第3号ができ上がりました。先日の日曜日から新聞折り込みで配布を開始したところですので、ぜひ皆さんもお手に取っていただければと思えます。</p> <p>前号の第2号は、小林委員に表紙を飾っていただきまして、働き盛りの現役の方々を表紙にというコンセプトでした。今回は夏休み前の時期を狙いとして、親子にスポットをあてた表紙を作りました。</p> <p>2面、3面は、情報誌というところで、夏に向けた様々なイベント、学習の機会の情報を満載する予定でしたが、あいにく様々なイベントが中止となっておりますので、皆さん、自宅からでもいろいろと調べてみよう、活動に参加してみようという内容にして</p>

	<p>みました。</p> <p>1面は、先ほど志村委員もおっしゃっていただきました地域で活動しているジュニアリーダー、区民活動コーディネーター、こういう本当に地域で学んで活動しているよという実践をレポートさせてもらいました。ぜひ、皆さんの口コミによる協力もいただきながら、広く地域の中で活動をアピールしていけたらと思います。</p> <p>引き続き、次回第4号も、よろしくお願いします。</p>
会長	<p>承知しました。他に何かございますか。</p>
事務局	<p>前回、小白木委員がご欠席でした。皆様には自己紹介をいただいたので、この場で、自己紹介いただければと思います。</p>
小白木委員	<p>《小白木委員の自己紹介》</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次回の推進会議の日程について、事務局からお願いします。</p> <p>《令和2年度 第2回は、9月18日（金）に開催》</p>
会長	<p>会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。</p> <p>《閉会》</p>